

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 枝光 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均をやや下回っていたが、本市平均をわずかに上回っていた。また、昨年度より正答率が10ポイントほど上昇していた。 ・昨年度に続き言語についての知識・理解・技能に課題があり、継続的に取組を強化していく必要がある。
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、書く事柄を整理する問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読み書きする問題や、ローマ字を正しく読み書きする問題については、正答率が低く、無回答率も高かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っていた。但し、無回答率は低かった。 ・目的や意図に応じてグラフや表を基に書くことに課題がある。
	よくできた問題	・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・グラフを基に、分かったことを的確に書く問題については、正答率が低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っていた。但し、無回答率は低かった。 ・特に「数と計算」「量と測定」領域の数量についての技能に課題があり、四則計算の定着を図る取組を強化していく必要がある。
	よくできた問題	・直方体における面と面の位置関係を答える問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・小数の除法の計算の問題については、正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を下回っていた。但し、無回答率は低かった。 ・特に「数量関係」領域の知識・理解に課題があり、複数の図形や式などを関連付けて説明することが難しかった。
	よくできた問題	・示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じ決まりが成り立つか調べる問題については、比較的正確率が高く、全国平均との差が少なかった。
	努力が必要な問題	・示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述する問題については、正答率が低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢をもっているかを測る設問では、肯定的回答をした児童の割合が全国平均を上回っていた。一方で、自尊心を測る設問では、肯定的回答をした児童の割合が、全国平均を下回っていた。 ・友達に自分の考えを伝えたり、友達のことを聞いたりすることができるかを測る設問では、肯定的回答をした児童の割合が、全国平均を下回っていた。 ・授業の中で、めあてやねらい・まとめ・ふり返りが位置付いていたと認識している児童の割合は、全国平均を上回っていた。一方で、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができるかを測る設問では、肯定的回答をした児童の割合が、全国平均を下回っていた。 ・家庭での学習を自主的に行っているかを測る設問では、肯定的回答をした児童の割合が、全国平均を下回っていた。 ・就寝・起床時刻の定まっていない児童の割合及び朝食を食べていない日がある児童の割合が、全国平均を上回っていた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の分析を基に、学力向上に向けての本校の取組の方向性や内容の共通理解を図る。 ・朝学習の時間を国語と算数に絞り、取組を徹底する。(月・木・・・国語(読書・音読)、火・水・金・・・算数(計算プリント)) ・枝光ルールの共通理解及び徹底を図る。(用具、服装、姿勢、板書・ノート、学び合い方、時間配分等) ・主題研究の取組を軸に、授業の中で思考の可視化と学び合いを位置付けることを、全学級で徹底する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・「枝光っ子家庭学習の手引き」を配付し、活用を促すとともに、毎月、担任が家庭学習の実施状況を確認し指導する。(生活習慣・学習環境・声かけのお願い、学習時間のめやす、自主学習内容例等を明記)
--